

序 言

激しく変動する今日の国際社会の中であって、地域社会に暮らす私たちが活力ある社会を創り出していこうとするなら、一人ひとりが声を上げ、みずから行動していかなければならない。より良き未来を目指すために、目の前の課題を放置せず、グローバルな視点を持って一つひとつ解決していくことが大切である。

新型コロナウイルス感染症は、パンデミック（世界的大流行）となって人類に恐怖を植え付け、ヒト・モノの流通を止め、世界の経済活動を停滞させた。未だにその収束のめどが立たないなか、今年（2022年）2月には戦争が始まり、私たちは新しい危機に向き合うことになった。そうしたなか、2022年6月に発表された世界銀行の「世界経済見通し」によると、ロシアのウクライナ侵攻、コロナ禍、「ゼロ・コロナ」を徹底する中国のロックダウンに起因した世界のサプライチェーン（供給網）混乱で、世界経済は大きく減速し、成長率は2021年の5.7パーセント（%）から、2022年は2.9%へと低下する見通しという（その後10月には2.7%へと下方修正）。

流通網の混乱、そしてエネルギー価格や食糧価格の高騰が長引けば、インフレ圧力も拡大し、事態の改善はさらに難しくなるものと思われる。すでに多くの国はマイナス成長に陥っている。国際社会の分断、経済の低迷は、地球温暖化対策にも後ろ向きの影響を及ぼし、地球的規模で豊かな活力ある、持続可能な未来を創ろうとするSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）も、その達成へ向けて、大きな試練に立たされている。

こうした危機の時代であって、経済の回復を急ぎ、教育の正常化を進めて、人びとが自由に移動して交流する日常を取り戻していくためには、危機を乗り越える工夫、発想、イノベーションが必要となる。さらには正確な現状認識と豊かな知性が欠かせない。

地域の高等教育と研究を担う大学には、最新の知見と持てる知的資源を地域

社会に広く提供する責務がある。あわせて国際的な視野を持つ有能な人材を育てて地域社会の活性化につなげていく使命も帯びている。

その一環として、北海道教育大学国際地域学科（函館校）が『国際地域研究 V』をここに上梓する運びとなった。函館校が毎年開催する国際地域研究シンポジウムの内容も取り込みながら巻を重ねてきた。

今回も読者の皆さまに、忌憚のないご批判、ご叱正、ご意見を仰ぎたいと思う。

2023 年 3 月

北海道教育大学長 蛇穴 治夫

国際地域研究 V

目 次

| | | |
|-----|-------|---|
| 序 言 | 蛇穴 治夫 | i |
|-----|-------|---|

第1部 国際地域研究の可能性

| | | |
|--|--------|---|
| 講演録 ジェンダーと多様性の視点からの防災・減災・復興 | 田中 由美子 | 3 |
| はじめに／世界で起きている災害／ジェンダーや多様性によって異なる災害のインパクト／なぜ女性が受ける被害のほうが大きいのか／東日本大震災から見えてきたジェンダーの課題／防災・減災・復興の国際的な潮流／仙台防災枠組の4つの優先行動／市民社会による優れた取り組み事例／防災・復興に役立つさまざまな成果物／国際協力における防災・減災・復興とジェンダーの取り組み／国際的なロビー活動をする女性グループ／おわりに | | |

| | | |
|-------------------------------------|------|----|
| 第1章 地域社会の多様性と人権 — パートナースhip制度を中心に — | 伊藤 泰 | 25 |
| はじめに | | 25 |
| 1. わが国におけるパートナーシップ制度をめぐる動き | | 26 |
| 2. 人権観念への訴えかけ | | 28 |
| 3. 社会権の諸前提 | | 31 |
| 4. 人権観念の「諸刃の剣」的性格 | | 34 |
| おわりに | | 36 |

| | | |
|--|------|----|
| 第2章 韓国在住脱北者からみる多文化共生社会の可能性 — 脱北者政策における多文化主義の観点に注目して — | 尹 鈺喜 | 40 |
| はじめに | | 40 |
| 1. 韓国在住脱北者の現状 | | 41 |
| 2. 韓国在住脱北者への支援政策 | | 44 |
| 3. 脱北者への支援政策と多文化政策 | | 47 |

| | |
|--------------------|----|
| 4. 韓国人と脱北者の相互認識のズレ | 49 |
| おわりに | 52 |

| | | |
|-----------------------------------|-------------|----|
| コラム 1 ジェンダーのアンコンシャス・バイアスの実態と教育の課題 | 木村 育恵 | 55 |
| コラム 2 「自分ごと」思考を問い直す | 有井 晴香 | 58 |

第 2 部 教育に資する国際地域研究

| | |
|------------------------------|-------------|
| 第3章 函館校の日本語教員養成の振り返りと今後の展望 | |
| — 15年の節目に — | 伊藤（横山）美紀…63 |
| はじめに | 63 |
| 1. 函館校の日本語教員養成プログラムの変遷 | 64 |
| 2. 国際地域学科における日本語教員養成プログラムの特色 | 66 |
| 3. 15年の節目にプログラムを振り返って | 68 |
| 4. 今後の日本語教員養成プログラムについての課題と展望 | 73 |
| おわりに | 75 |

| | |
|------------------------------|---------|
| 第4章 教員研修留学生の算数・数学科における学習観の変容 | |
| — 附属函館小・中学校での授業観察をとおして — | 石井 洋…78 |
| はじめに | 78 |
| 1. 「算数・数学科授業研究コース」の事例 | 79 |
| 2. 調査の概要と分析の枠組み | 81 |
| 3. 調査結果 | 83 |
| 4. 考 察 | 88 |
| おわりに | 90 |

| | |
|---------------------|----------|
| コラム 3 幼児教育と遊び | 外崎 紅馬…92 |
|---------------------|----------|

第 5 章 ICT を活用したフィールド教育の可能性

— オンライン海外スタディーツアーにおける

| | |
|--------------------|----------------|
| 学生の変容に着目して — | 有井 晴香・新 江梨佳…97 |
|--------------------|----------------|

はじめに 97

1. 自己変容を促す海外体験学習 98
2. タイ・オンラインスタディーツアーの概要 100
3. オンラインツアーでの学習に向けた工夫 103
4. 学生の気づきと変容 107

おわりに 111

第 6 章 持続可能な地域づくりを目指した実習教育の展開

— 「地域滞在型インターンシップ」によるエンパワメント実践 —

| | |
|-------|-----------|
| | 齋藤 征人…114 |
|-------|-----------|

はじめに 114

1. インターンシップ教育研究の現状 115
2. 北海道教育大学函館校における地域滞在型インターンシップ 117
3. 学生と地域が共にエンパワメントするために 126

おわりに 127

第 7 章 ポイ捨てゼロの観光地を目指す心理学的探究

— 五稜郭公園の桜がもたらすポイ捨て抑制効果を探る —

| | |
|-------|-----------|
| | 林 美都子…130 |
|-------|-----------|

はじめに 130

1. ゴミのポイ捨てとは 130
2. ポイ捨てはどこで発生するのか 132
3. ポイ捨て抑制理論 — “ポイ捨て抵抗感” をもたらすものは何か 133
4. 先行研究におけるポイ捨て抑制手法の諸提案 135

5. 函館のポイ捨て事情 136
 6. 効果的なポイ捨て抑制看板を探る 137
 7. ポイ捨ては、呪われたぐらいではやめられない 143
 8. 五稜郭公園の満開の桜は、ポイ捨てを抑制できるのか 145
- おわりに 147

コラム 4 歴史の影にいる女性実践家たち……………長尾 智絵…150

第 8 章 心理的安全性は対話的な学びにどのように関わるのか

— 特別の教科 道徳における対話に注目して — …… 奥田 秀巳…152

はじめに 152

1. 学校教育における対話的な学び 153
2. 心理的安全性の概念 154
3. 哲学対話における知的安全性の概念 159
4. 心理的安全性と知的安全性 161
5. 道徳科における対話的な学びと心理的安全性 163

おわりに 167

第 9 章 英語学習における持続可能な動機づけ — 全人的視点から —

…………… 菅原 健太…169

はじめに 169

1. 全人的な視点に基づく動機づけとは？ 170
2. 第二言語習得における動機づけと幸福論 173
3. 第二言語のマスターに向けた長期的な動機づけの維持 178
4. 英語学習における動機づけの維持・回復力についての考察 185

おわりに 187

コラム 5 韓国訪問を勧めたい一つの理由……………山岡 邦彦…193

第3部 シンポジウム

| | |
|---------------------------------------|-----|
| 1. 概要 | 197 |
| 2. パネルディスカッション「重なりあう世界 わたしは何をする？」 | |
| 田中 由美子・古地 順一郎・木村 育恵・伊藤 泰・山岡 邦彦… | 201 |
| あとがき | 224 |
| 執筆者紹介 | 225 |